

第 198 回

山形県社会教育委員の会議

- ◇ 期 日： 令和 6 年 8 月 28 日(水)
- ◇ 時 間： 13：30 ～15：30
- ◇ 場 所： 山形県生涯学習センター
第一研修室ほか
対面・オンライン併用

次 第

- 1 開 会
- 2 委員委嘱
- 3 あいさつ
- 4 出席者紹介
- 5 座長選出
- 6 議 事
 - (1) 第6次山形県教育振興計画（後期計画）における社会教育事業の実施状況について 【資料1】
 - (2) 第7次山形県教育振興計画における社会教育事業について 【資料2】
 - (3) その他
- 7 その他
- 8 閉 会

山形県社会教育委員

任期:令和6年7月26日～令和8年7月25日

No.	氏名	役職
1	あんどう こうき 安藤 耕己	山形大学地域教育文化学部地域教育文化学科教授
2	いしざわ えり 石沢 恵理	東北芸術工科大学講師
3	おおむら みちお 大村 亨夫	白鷹町社会教育委員長 東北芸術工科大学非常勤講師
4	こはら やすこ 古原 靖子	山形市立東小学校長
5	さとう なるみ 佐藤 成美	県家庭教育アドバイザー 家庭教育応援ボランティア活動団体アベルんち代表
6	すがわら ともこ 菅原 知子	三川町教育委員会 生涯学習推進員 県地域青少年ボランティア推進委員
7	すずき まさし 鈴木 雅史	山形新聞社 論説委員長・局長
8	たかはし まゆみ 高橋まゆみ	県家庭教育アドバイザー
9	たけだ やすひろ 武田 靖裕	山形県PTA連合会会長 武田紙工株式会社代表取締役
10	ほりかわ けいこ 堀川 敬子	山形市立第一小学校 地域学校協働活動推進員
11	ふじかわ かな 藤川 かな	合同会社「Oriori Japan」代表
12	ほそや なおき 細谷 直樹	山形市立第一中学校長
13	やぐち のぶ 矢口しのぶ	真室川町教育委員会 社会教育指導員 読み聞かせサークル「おはなしくまさん」
14	わたなべ あきら 渡邊 晃	県立山形東高等学校長

(五十音順 敬称略)

県社会教育委員の会議 県教育委員会等事務局

所 属 ・ 役 職		氏 名
教育次長		加藤 淳一
生涯教育・学習振興課	課長（兼）郷土愛育成室長	東海林 靖志
〃	課長補佐（兼）郷土愛育成室長補佐 （生涯学習・社会教育担当）	村上 康広
〃	社会教育専門員	木村 征子
〃	社会教育主査 （兼）郷土愛育成主査	川田 大
〃	社会教育主査	佐藤 陽介
〃	社会教育主査 （兼）郷土愛育成主査	小野 大輔
〃	生涯学習主査	秋葉 正任
〃	青少年教育施設主査	大澤 敦子
〃	青少年教育主査	矢口 暁子
〃	図書館活性化主査 （兼）郷土愛育成主査	小山田 寛子
〃	主 事	石黒 海
県生涯学習センター	学習振興部長	阿部 稔
村山教育事務所	社会教育課長	原田 正明
最上教育事務所	社会教育課長	栗田 忠男
置賜教育事務所	社会教育課長	佐藤 健
庄内教育事務所	社会教育課長	高橋 千尋

(1)第6次山形県教育振興計画(後期計画)における社会教育事業の実施状況について

1 豊かな心と健やかな体を育成する

教育の原点である家庭教育、幼児教育の推進

これまでの取組み	課題	今後の方向性
<p>1 県家庭教育支援推進協議会 ○年間1回開催し、県の方針や推進施策の計画・検証</p> <p>2 家庭教育支援フォーラム ○県内4地区で家庭教育支援者の資質向上とネットワーク構築を図る研修等を実施</p> <p>3 やまがた子育て講座 【市町村補助事業】 ○家庭教育に関する講話や座談会等の実施 R1：146回 → R5：112回</p> <p>4 家庭教育電話相談の開設 ○年間を通じて、相談員による家庭教育相談を受付 R1：341件 → R5：257件</p> <p>5 やまがた子育て生活習慣改善 ○家庭教育に関する講座や就学時健診時等における保護者向け学習資料リーフレットの活用による ①家庭教育に関する保護者向けの啓発 ②県家庭教育アドバイザーの委嘱及び資質向上を図る研修の実施 R1：95回 → R5：263回</p> <p>6 「やまがた教育の日」記念講演の開催 ○年1回家庭教育に係る講演を実施</p> <p>7 幼児共育の推進 ○幼稚園・保育所等保護者等を対象に、主に親子一緒の人やモノ、自然とのかかわりを通して親子のふれあいを大切にした様々な体験活動の実施 R1：141回 → R5：136回</p>	<p>○子育てや家庭教育についての相談に対する保護者のハードルを下げる必要がある。</p> <p>○困難※を抱えている保護者へ家庭教育支援を届けるための効果的な手立てを講じる必要がある。 ※) 保護者の困難性① 心身状態や子育て等の家庭環境等により、講座や研修会等に参加することが難しい。 ※) 保護者の困難性② 転居、地域性等により、周囲に相談できる友人・知人や頼れる親類等がおらず、孤立している。</p> <p>○リーフレット(やまがた子育て5か条)への反響が大きく、リーフレットの需要も大きいため、より効果的かつ効率的に「やまがた子育て5か条」の内容理解の促進を図る必要がある。</p>	<p>○保護者が安心して家庭教育相談を受けられるようにするために、「家庭教育サポーター制度」の創設を検討。</p> <p>○不登校などの困難を抱える家庭を対象に、少年自然の家を活用した親子参加型事業を提供することで、子どもは自然体験を行い、保護者は、家庭教育の研修と相談を行う事業の実施を検討。</p> <p>○リーフレットを増刷するほか、HPやSNS等による周知を図り、保護者が各個人で活用いただけるようにする。</p>

豊かな心の育成

これまでの取組み	課題	今後の方向性
<p>1 子どもの読書活動推進研修会 (読育推進ネットワーク研修会) ○読み聞かせサークル及び図書館関係者及び教員等を対象に、県内4地区で、子どもの読書活動推進の普及・啓発 R1: 234人 → R5: 202人</p> <p>2 子どもの読書活動推進講座 (読育推進連携講座) ○幼児～小学校までの子どもとその親等を対象に県内4地区で地域の施設等を含む教育資源の活用による魅力的な読み聞かせ講座の提供 R1: 173人 → R5: 195人</p> <p>3 多様な読書の普及啓発 ○オーディオブック等紙媒体以外のアクセシブルな書籍の体験イベントを通じた啓発 (R6 年度実施予定)</p>	<p>○研修会や講座開催の案内が届いていないケースがある。</p> <p>○距離的に遠い等参加が難しい方も参加できる環境を整える必要がある。</p> <p>○研修会参加者の多数を占める読み聞かせサークルや保育士等は、スキルアップを求める傾向があり、事業目的と参加者ニーズのバランスを取る必要がある。</p> <p>○連携講座は各地区とも好評で参加人数が増加傾向にあるが、読み聞かせという特性上、内容や規模に制限があり、参加を断らざるを得ない場合もあった。受け入れ態勢の拡充や実施内容等の工夫が必要。</p>	<p>○SNSの活用、HPの掲載等多様な周知広報を行う。</p> <p>○講座や研修会の開催にあたっては、オンラインの併用や、開催回数を増やす等参加機会の拡大を図る。</p> <p>○参加者のスキルアップと多様な読書ツールを活用した読書活動のあり方についての理解促進を図る研修会の開催</p> <p>○絵本の読み聞かせと開催地区にある資源や施設との組み合わせを基本にしながら、多様な子どもを対象とした事業を企画・実施。</p>

2 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

不登校児童生徒教育機会確保に関する取組み

これまでの取組み	課題	今後の方向性
<p>1 不登校児童生徒が通うフリースクールなど民間支援団体と在籍する学校との連携状況調査</p> <p>2 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク推進会議 ○民間支援団体や教育支援セ</p>	<p>◎不登校が継続している児童生徒、新規の不登校児童生徒双方が学びの機会を得られるよう支援する必要がある。</p>	<p>◎すべての不登校児童生徒に学習機会を提供できる環境を整備していく。</p>

<p>ンター、相談支援機関、SSW等と学校とのよりよい連携や支援の在り方について情報を共有し推進</p> <p>○『不登校児童生徒の相談ハンドブック』『不登校児童生徒の支援ハンドブック』の作成・改訂に係る意見聴取</p> <p>3 地区ネットワーク会議</p> <p>○県内4地区で2回開催し、地区における民間支援団体と市町村教委との連携体制の推進及び支援者の資質向上</p> <p>4 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク研修会</p> <p>○民間支援団体や教育支援センター、SSW、SC等と学校との連携支援の話題提供によるシンポジウム及び情報交換会を開催し研修を深め、地域の支援団体と教育支援センター、教員と関係構築のきっかけづくり R2:122人→R5:128人</p> <p>5 『不登校児童生徒の相談ハンドブック』『不登校児童生徒の支援ハンドブック』作成・改訂</p> <p>6 教育支援センター及び民間支援団体の情報提供、周知 (HPや「やまがた子育て5カ条リーフレット」による情報提供)</p>	<p>○効果的な連携のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区推進会議の協議を生かした、連携の充実。 ・義務教育終了後を含めた支援や高校との連携のあり方。 ・多様な機関との連携の拡充。 <p>○支援機関からの支援情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対する支援の充実と保護者の児童生徒への関わり方支援。 ・市町村教育支援センターや民間支援団体等支援機関の存在の周知。 ・法令や通知の周知。 <p>○不登校支援ハンドブックの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内での活用が進んでいるが、新しい法令や通知等との整合性を図る必要がある。 ・新規採用教員等の活用促進 	<p>○効果的な連携のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情応じた効果的な地区推進会議による連携の充実 ・中学校と高校が連携した支援事例の研修会の実施や、県推進会議において高校生も視野に入れた支援を検討。 ・知事部局や市町村等、より幅広い関係課にオブザーバー等で参加の依頼。 <p>○支援機関の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未然防止の観点から、不登校児童生徒の有無に関わらず相談機関等の情報を教職員や保護者へ提供。 ・PTA研修会の機会等での不登校についての講演等の開催促進。 ・家庭教育の保護者用学習資料等を活用したHPへのアクセス促進。 <p>○不登校支援ハンドブックの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細版に最新のデータや法令等を掲載。 ・概要版を刷新し、全ての教員に配付。
---	--	---

**3 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する
郷土愛を育み、地域と協働する教育の推進**

これまでの取組み	課題	今後の方向性
<p>1 山形県自作視聴覚教材コンクールの開催</p> <p>○年1回コンクールを開催し、視聴覚教材を自作している団体・個人の優れた取組みの顕彰 R1:32作品 →R5:34作品</p> <p>2 自作視聴覚教材の活用・普及</p>	<p>○製作者の高齢化が進んできており、若い世代の製作者の育成。</p> <p>○県自作視聴覚教材コンクールの優秀作品等を利活用。</p>	<p>○コンクールの開催について、学校への周知に力を入れることで、視聴覚教材製作者のすそ野を広げられるようにする。</p>

<p>○県自作視聴覚教材コンクール、全国自作視聴覚教材コンクールで優秀な成績を収めた作品をふるさと塾アーカイブスへの掲載し、周知・活用</p>		<p>○2月に行われる山形県自作視聴覚教材コンクール表彰式当日の発表会以外での発表の機会をつくる。</p>
<p>1 郷土を知る情報ポータルサイト「ふるさとやまがた発見ナビ」の運用管理 「ふるさとやまがた発見ナビ」は、山形県内の幅広い分野の公的機関・団体と連携し、多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるネットサービス。特に、小学生3年生～6年生が、探究型学習等を行う際に、手軽に地域を知ることができ、地域の魅力を発見することで、「郷土愛」を持った若者の育成を行うもの。令和4年度構築。 ・掲載コンテンツ数：406 コンテンツ（令和6年3月末現在） ・令和5年度pv数：56,206 pv</p> <p>2 郷土の魅力発見・体験プログラムの普及 ○県内4地区で市町村公民館職員等が『中学生が企画運営する「小学生向けの地域学習活動」プログラム』を実施できるよう教育事務所の支援のもと実施し、全県への普及 R5：参画中学生21名 参加小学生58名 普及啓発：8か所</p>	<p>◎コンテンツの充実 ○活用促進のため、コンテンツをさらに充実する必要がある。</p> <p>◎授業等での活用促進 ○教員・児童生徒の当該ポータルサイトの認知度を高め、授業等での活用をさらに促進する必要がある。</p> <p>○本事業に参画する中学生との日程調整が難しく、打ち合わせの数が限られること。</p> <p>○本事業の取組みを、広く周知し、全県的に普及させること。</p>	<p>◎コンテンツの充実 ○本県を題材にしたアーカイブやデジタルコンテンツ、子ども向けデジタル資料等の掲載コンテンツ数を増やし、ユーザーの求めている情報、有益な情報を充実させることで、活用促進（PV数の増加）を図る。 ○教育CSRに取り組む企業を掲載することで、企業との連携を強化し、教育の充実を図る。</p> <p>◎授業等での活用促進 ○市町村教育委員会と連携して、探求型学習における教員の教材研究や児童生徒の課題・テーマ設定等で活用してもらえるよう、引き続き教員・児童生徒に対する周知広報を行う。</p> <p>○早い段階で担当者間の打合わせができるよう、計画的な事業展開を行う。</p> <p>○各地区・各市町村で行われる公民館・コミセン職員の会議等に参加し、事業の普及を図る。</p>

山形の宝の保存活用・継承

これまでの取り組み	課題	今後の方向性
<p>1 記録保存システム「ふるさと塾アーカイブス」の運用</p> <p>○ふるさと塾活動賛同団体の伝承活動を記録・保存し次世代に伝えるとともに、インターネット公開によるふるさと塾の活性化</p> <p>活動記録 R1：255 → R5：350 英語表記 R1:39 → R5:57</p>	<p>○人口減少や高齢化、コロナ禍による自粛等により活動を休止する団体が出てきており、地域文化の伝承が難しくなっている。</p> <p>○既に公開されている映像でも古い映像があり、表現や内容をリニューアルする必要がある。</p> <p>○多言語し、視聴数を増加させることで、地域文化の価値を高め、文化継承のモチベーションアップを図る必要がある。</p>	<p>○活動休止や解散になる前に、アーカイブス化する必要があり、撮影する団体数を増やしていく。</p> <p>○15年以上前に掲載済みの団体の再撮影を進める。</p> <p>○アーカイブスの多言語化を進める。</p>
<p>2 指導者の育成を目的とした研修会・出前講座の開催</p> <p>○県内4地区10か所程度で、地域文化の伝承に携わっている方々を対象とした研修会や文化伝承活動に取り組む学校や賛同団体等へ指導者を派遣する出前講座を開催し、地域の実情に応じた課題の解決、団体同士のネットワークの形成及び指導者の資質向上</p> <p>R1:122回 → R5:65回</p>	<p>○研修会の開催が少なく、ニーズを把握したり、周知したりする必要がある。</p> <p>○出前講座の利用を希望する団体がコロナ禍で減少していたが、回復してきている。しかし、受け入れ数には限界があるので、受け入れの方法に検討が必要。</p>	<p>○様々な団体に出前講座や研修会を利用してもらえるよう、その趣旨やシステムの理解促進を含め、継続的で効果的な周知広報を行う。</p>
<p>3 市町村総合交付金による「ふるさと塾」活動支援</p> <p>○地域文化継承の基盤づくりを目的に市町村総合交付金を交付し、市町村が「ふるさと塾」活動をする。</p> <p>R1:34市町村 → R5:30市町村</p>		<p>○各市町村が文化伝承活動の保存や継承の取り組みができるよう支援を継続する。</p>

青少年の地域力の育成・地域活動の促進

これまでの取り組み	課題	今後の方向性
<p>1 地域青少年ボランティア活動の推進</p> <p>①県及び地区地域青少年ボランティア推進会議の開催(年2回)</p> <p>②ホームページの管理運営</p> <p>③YY ボランティアサークル支</p>	<p>◎高校生ボランティア活動</p> <p>○ボランティア活動に興味を持ってはいるが、行動に移せない中高生が、行動に移せるような手立てが必要がある。</p>	<p>◎中学生に対するすそ野の拡大を図りながら、高校生になっても継続できるような取り組みを行っていく。</p>

<p>援(団体名簿作成、出前講座) R1 : 48 団体 →R5 : 46 団体</p> <p>④「夏の体験ボランティア」に関する情報収集及び提供</p> <p>⑤高校3年生のボランティア活動実態調査 H30 : 82.7% →R5 : 78.0%</p> <p>⑥各教育事務所による YY ボランティアサークル支援</p> <p>2 次世代の地域リーダーの育成</p> <p>①青年ファシリテーターと中高生の企画・実践及び発表等の取組みによる、次世代リーダーとしての資質能力を育成。 地域活動への参画意欲「参画したい」「どちらかといえば参画したい」の回答率 R4 : 97.9% →R5 : 100%</p> <p>②県内各高校生同士の相互交流及びネットワーク形成</p> <p>3 地域活動・青少年ボランティア活動のすそ野拡大</p> <p>○学校外での社会貢献活動や交流活動を体験できずにいる中学生に対し、ボランティア活動や地域づくりに関する知識やスキルを身に付ける講座を開催 R1 : 2回 →R5 : 3回</p>	<p>○ボランティア活動に興味を持っている中学生・高校生は多いが、活動内容やボランティアサークル等の情報を得ることが難しい現状がある。</p> <p>○高校3年生のボランティア活動は、コロナ前は年々増加していたが、コロナ禍で激減した。その後、復調しているが、コロナ前の状況まで回復していない。</p> <p>◎次世代の地域リーダーの育成</p> <p>○参加者の地域活動への意欲の向上が図られ、自ら地域活動を企画・運営する高校生も出てきたが、より広く普及することが課題。</p> <p>○地域ごとの課題が異なるため、それぞれの課題に沿った事業設計が必要である。</p> <p>○県主催事業以外でも人材育成事業や様々な地域づくり活動が行われており、同じような事業を展開する知事部局等との情報共有が必要である。</p> <p>◎地域活動・青少年ボランティア活動のすそ野拡大</p> <p>○中学生に対し、体験機会の提供を行ってきており、YY ボランティアサークルの復活等につながっていることから、中学生から高校生になっての活動継続や新たな活動につなげるための取組みが必要である。</p>	<p>○少子化等の状況を踏まえ、各地区の課題に応じた事業を展開できるようにする。</p> <p>○SNS での情報発信やイベント会場での募金活動など、活動状況を分かりやすく提示する取組みを継続し、さらに、実際に活動している生徒の生の声が届くようにしていく。</p> <p>○知事部局等で行う事業の情報を収集し、連携を図る。</p>
--	---	---

4 活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める

学校・家庭・地域の連携・協働の推進

これまでの取組み	課題	今後の方向性
<p>1 県推進会議の開催 ○県の方針や推進施策の計画・検証・評価をするために、「放課後児童対策推進協議会」「地域と学校との連携協働推進協議会」「家庭教育推進協議会」を年1回開催</p> <p>2 学校関係者等への理解促進 ○県内4地区で、学校教育関係者を対象として、コミュニティ・スクールなど一連の教育施策と関連づけながら、地域学校協働本部の必要性やメリットへの理解を深める研修会や出前講座を開催 市町村教育委員会、各学校、地域住民等を対象とした出前講座の回数 R3：41 → R5：25</p> <p>3 指導者等への支援 ①全県及び県内4地区で、地域学校協働活動推進員等を対象に、役割や各市町村の地域学校協働活動の事例、推進員同士のネットワーク形成を図るための研修会を開催 地域学校協働活動推進員養成講座に参加した人数 R2：212人 → R5：148人 ②県内4地区で、「放課後子ども教室」及び「放課後児童クラブ」における指導者や教員等を対象に、放課後子ども指導者等研修会を開催 R1：2,232人 → R5：1,466人</p> <p>4 市町村補助 ○家庭教育支援(再掲)、学校教育支援、放課後子ども教室等に対する市町村補助の実施 R1：82,903千円 → R5：93,004千円</p>	<p>○学校運営協議会の設置が急激に進んだことで、学校運営協議会と地域学校協働活動とが一体的な取組みになっていないケースがみられる。</p> <p>○地域として企業等法人との連携が進んでいない状況がある。</p> <p>○地域や学校の実態、推進員の経過年数等で抱える課題が異なり、それぞれのニーズに合わせた研修を開催する必要がある。</p> <p>○放課後子ども教室関係者の参加率が低く、放課後児童クラブの支援員等と比べ、研修の必要感や課題意識の差が大きい。開催地を含め、内容や持ち方を工夫する必要がある。</p> <p>○最低賃金の上昇等により、事業額全体に対する補助額の割合が年々増加している。</p>	<p>○教員向けの研修等で、社会教育分野の内容や、CSと地域学校協働活動の一体的な取組みについての研修ができるようにしていく。</p> <p>○校長会などの場で、CSと地域学校協働活動の一体的な取組みについての現状を伝え、理解促進を図るとともに、出前講座の活用を促す。</p> <p>○地域との連携を充実させるため、企業等法人との連携の充実を図る。</p> <p>○第1期と第2期の研修の内容を差別化し、様々な地域の実態に合わせた事例等を提供できるようにする。</p> <p>○各地区の規模から開催地を分ける、周知広報の仕方を工夫する等して、より多くの関係者の参加を可能にするとともに学びの多い研修となることを目指す。</p> <p>○市町村における事業がより充実したものとなるよう継続的に支援する。</p>

地域の教育力を高める生涯学習環境の充実

これまでの取り組み	課題	今後の方向性
<p>1 社会教育主事養成及び関係職員研修</p> <p>①東北大学及び国立社会教育実践センター等社会教育主事養成研修の実施 R1：20名、R2：中止、R3：16名、R4：13名、R5：12名 合計61名</p> <p>②社会教育関係職員初任者研修及び関係職員対象の成人期・高齢期教育研修会の開催 R1：91名 →R5：96名 R1：44名 →R5：57名</p> <p>③市町村における社会教育事業等の実施状況調査 R1：2,922事業、参加者520,405人 →R5：6,113事業、参加者381,326人</p> <p>④研修費等助成による市町村研修等支援 R1：10回 →R5：12回</p>	<p>◎社会教育主事養成について</p> <p>○社会教育主事有資格者教員は減少傾向にある。資格を持つ教員は407名（R5年度）であるが、今後有資格者の退職数は、年平均35名程度。</p> <p>○一般の方からも問い合わせがあるため、一般向けの情報発信が必要。</p> <p>○県内35市町村中、21市町村で社会教育主事が発令されていない。</p> <p>◎社会教育関係職員等研修について</p> <p>○アンケート結果では、両研修とも概ね良好であり、有意義なものとなっているが、参加者を増やす工夫が必要。</p> <p>◎社会教育事業調査について</p> <p>○市町村の事業調査を行い、事業の実施状況を把握するとともに、市町村に情報提供してきた。近年の傾向として、酷暑等により、事業中止や参加者の参加自粛が見られる。</p> <p>◎市町村の研修支援</p> <p>○県社会教育連絡協議会をとおり、県内市町村の社会教育の振興を図るため、更なる支援の充実を図る。</p>	<p>◎社会教育主事養成について</p> <p>○社会教育主事の資格について、一般の方を含めた周知を幅広く行うとともに、現場（学校、市町村の教育委員会や公民館等）の方の受講を促していく。</p> <p>○各教育事務所の市町村訪問等の機会を、社会教育主事の設置を促す。</p> <p>◎社会教育関係職員等研修について</p> <p>○R6年度より初任者研修を村山・庄内の2会場で実施する（R6：100名）。内容の充実を図るとともに、冬期に実施する成人期・高齢期研修の開催方法を検討する。</p> <p>◎社会教育事業調査について</p> <p>○調査を継続し、状況の把握と情報提供を行う。</p> <p>◎市町村の研修支援</p> <p>○助成を継続し、支援内容の周知を徹底する。</p>
<p>1 社会教育施設整備・充実</p> <p>①県立図書館 「山形県立図書館活性化基本計画（平成28年3月教育委員会策定）」の基本コンセプトである「県民が集い・学ぶ本のまち」の実現に向け、一層の利用促進及び満足度向上を図るため、多様な主体と連携した賑わいづくりに取り組んでいる。</p> <p>②各青少年教育施設 利用者の安全性を第一に青少年育成に向けた様々な事業を展開し、維持管理を図るべく、県有建物長寿命化計画</p>	<p>①県立図書館 県立図書館の中期的な事業計画である「山形県立図書館運営基本プラン2025」に基づき、県民一人ひとりの生涯学習の基盤となり、知の集積と循環によって、新たな知恵や活力を生み出し、県民の成長と地域の賑わいに貢献する図書館を目指す。</p> <p>②各青少年教育施設 近年の物価高騰や人件費の上昇に伴う予算の確保に苦慮しているとともに、全施設が開所後38年を超え、施設設備の老朽化が著</p>	<p>①県立図書館 一層の利用促進及び満足度向上並びに賑わいづくりのため、地域住民や大学生等による「賑わいづくり企画・実行委員会」におけるアイデアや連携先を活かした「図書館フェスタ」等のイベント・企画展示を実施する。</p> <p>②各青少年教育施設 必要な予算の確保に努めるとともに、県有建物長寿命化計画に基づき、計画的に長寿命化対策を進め、引き続き適切に整備</p>

<p>に基づいて、指定管理者と連携しながら適切に整備の上、運営している。</p> <p>③生涯学習センター 生涯学習センターが入居する複合施設「遊学館」は、開館から30年以上経過し、施設・設備等について経年劣化による不良箇所が出現しており、修繕の必要性及び優先順位を見極めながら、計画的に修繕・更新を行っている。</p>	<p>しく、年々要修繕箇所が増加している。</p> <p>③生涯学習センター 生涯学習センターが入居する複合施設「遊学館」は、開館から30年以上経過し、施設・設備等について経年劣化による不良箇所が次々と出現している。</p>	<p>していく。</p> <p>③生涯学習センター 生涯学習センターが入居する複合施設「遊学館」の施設・設備等について、修繕の必要性及び優先順位を見極めながら、引き続き計画的に修繕・更新を行っていく。</p>
--	--	--

本県教育を取り巻く社会経済状況(主なもの)

- 人口減少の加速化 ○気候変動と自然災害
○グローバル化の進展と国際環境の複雑化
○VUCAの時代(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)
○共生社会・社会的包摂 ○Society5.0の到来

第6次山形県教育振興計画期間の現状(主なもの)

- 探究型学習の拡大・浸透 ○併設型中高一貫教育校の設立
○自分には良いところがあると思う児童生徒の割合が高い
○運動時間数の減少 ○不登校児童生徒の増加
○教員志願倍率の低下 ○授業でのICT利用頻度が低い

今後を見据えた課題(主なもの)

- 予測困難な時代を生き抜くための変化に対応できる力の育成
○多様な個人を尊重し、包摂社会に寄与する態度・姿勢の育成
○DXや少子化、地域との連携等、様々な変化に対応した学びの環境整備

【目標】 ウェルビーイング※を目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

※ 身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず将来にわたる持続的な幸福を含むとともに、個人だけでなく、地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

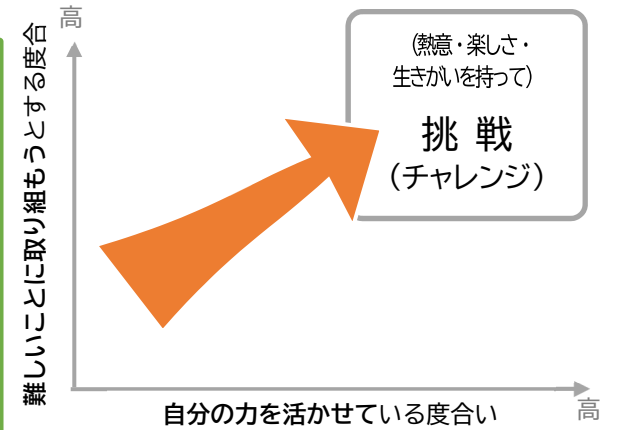
<目指す社会>

- ◎異なる立場や考え、価値観を持った人々が豊かに生き活きと暮らす中で、
●子どもは、学校の中だけでなく、社会の中で交流し、ワクワク感(意欲、興味、関心)を持って自ら選択し学び合っている
●大人・家庭は、互いを尊重する姿を見せ、子どもの試行錯誤を見守り、挑戦できる環境をつくっている
●地域等は、子ども一人ひとりの違いや個性を認め、それぞれに応じた多様な学びの場や安全・安心な環境を提供している

<ウェルビーイングを目指すためには>

・個人の幸せだけでなく、社会が幸せを感じられるよう、県民皆が自分の力を活かしながら、前向きに取り組んでいることが重要

→「挑戦」していることが重要



【県民の皆様へ(メッセージ)】

○本計画は、教育行政の取り組みを中心にまとめたものだが、県民一人ひとりが自分事としてとらえ、学校・家庭・地域が当事者としてそれぞれの役割を果たしながら一緒に取り組むことが大切。 ウェルビーイングを目指して、県民みんなでチャレンジ!

●子どもたちへ

- ・地域や社会で色々な人と交流する
・学ぶ楽しさや意味を知る
・失敗を恐れず、様々なことをやってみる
・自分を大切にするとともに、他者を尊重する など

●保護者、家庭の皆様へ

- ・家庭は子どもの学びや社会性を育む原点となる
・子どもが自分で育つ力を信じ、遠くから見守りながら困った時は手を差し伸べる
・家庭は子どもが安らげる場所となる など

●地域、企業・NPOの皆様へ

- ・画一的な学びから個別最適な学びへの変化を認識する
・学びの場は学校以外に広がり、地域や企業、社会全体が主体的に参画し提案する
・子どもの健康や成長を見守る など

県民みんなでチャレンジ!

チャレンジ1 体験

ワクワク無限大

チャレンジ2 探究

「なんで？」を大切に

チャレンジ3 尊重

みんなが主役で応援団

チャレンジ4 協働

みんな笑顔で

取り組みのイメージ

※内容は今後検討していくもの

※()内は、チャレンジに関連する、方針以下の想定取組例を参考として例示。

●子どもたち 学校内外で大人や企業等と積極的に関わり、農作業や芸術、起業や商品開発など様々な体験にワクワク挑戦!

●家庭 子どもたちを様々な体験に送り出す ●地域の大人 仕事や作業を任せる等、子どもたちへリアルな体験の機会を提供する(関連取組例; 体験学習の充実 [アクション3]、アソビ・レジャー教育の展開 [アクション2]、職業実践力の育成 [アクション1])

●子どもたち 様々なことに「なんで？」と興味関心を持って自分で調べたりして探究し、自由な発想で新しいことに踏み出す!

●家庭 子どもの自由な発想を後押しし、試行錯誤を見守り、支える ●地域の大人 機材や人材の提供等、子どもの探究の機会や場を支える(関連取組例; 探究学習の拡大 [アクション1]、STEAM教育の充実 [アクション2]、企業・大学等との連携・協働 [アクション8])

●子どもたち 自分を大切にするとともに、互いの個性を尊重してコミュニケーションし、一人ひとりの良いところを見つける!

●家庭 親子で対話し、子どもの生活習慣を整え、社会性を育む ●地域の大人 子どもの模範となりながら心身の成長を支える(関連取組例; 家庭教育支援の充実 [アクション8]、主権者教育の推進、健康や食に関する教育の推進 [アクション3])

●子どもたち 地域イベントやボランティアなどで協働し、学びを実際に活かしながら、楽しく地域社会を創っていく!

●家庭や地域の大人 地域活動に子どもたちの意見を取入れるなど、生き活き安心して協働できる環境をつくる(関連取組例; 感性や郷土愛の育成 [アクション3]、コミュニティカールの推進 [アクション8]、教職員の働き方改革 [アクション7])

DXはみんなの友達 [アクション6]

【子どもも大人も】 デジタルのメリットを最大限に活かしてチャレンジ

・生成AIの活用



例: 課題研究での生成AIの活用 (酒田光陵高校)

・メタバースの活用



例: 生徒が制作したメタバースによる『鶴工バーチャル体験入学』 (鶴岡工業高校)

方針Ⅰ 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジする学びや態度を育成する

アクション1 自ら考え、主体的に行動する力を育む

()内は想定取組例

● 様々な体験を通し自分の興味関心を見つけ、行動する経験を積み重ねることで、主体的に学び続ける

① 確かな学力の育成

(・探究学習の拡大 ・少人数学級編制の展開 ・異学年共同学習の展開 ・幼児教育の推進 等)

② キャリア教育の充実

(・職業実践力の育成 等)

アクション2 新たな価値を創造する力を育む

● 時代の変化を敏感に捉え、自由な発想で果敢に挑戦し、失敗しても諦めずに創意工夫する

③ グローバル社会における人材育成

(・外国語教育の充実 ・海外体験学習の実施 ・ICTを活用した海外との交流 ・多文化共生に関する学習の展開 等)

④ イノベーションを担う人材育成

(・STEAM教育の充実 ・アントレプレナーシップ教育の展開 等)

アクション3 互いを尊重し前向きに生きる心と体を育む

● 豊かな心健やかな体を育み、互いを尊重し、社会の一員として自分の意志を持ち前向きに行動する

⑤ 豊かな心の育成

(・体験学習の充実 ・感性や郷土愛の育成 等)

⑥ 健やかな体の育成

(・健康や食に関する教育の推進 ・体力、運動能力の向上 等)

⑦ 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成

(・主権者教育の推進 等)

方針Ⅱ 誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する

アクション4 それぞれの個性を活かし尊重した学びを実現する

● 一人ひとりが違うことを前提に、多様な他者との交流による学び合いを進めそれぞれの可能性を引き出していく

⑧ 特別支援教育の推進

(・通級指導や特別支援学級の充実 ・就労支援の充実 ・医療的ケア児の支援 等)

⑨ 様々な事情を持つ子どもへの対応

(・不登校児童生徒への対応 ・家庭の事情等により学業に影響が生じている子どもへの対応

・外国人児童生徒への対応 等)

アクション5 生涯にわたり学びやスポーツ・芸術文化活動を楽しむ

● 人生100年時代を見据え、学校だけでなく地域や企業、社会全体で、大人も子どもも多様な人と一緒に生涯学び、それを社会の中で生かす学びのサイクルを実現する

⑩ 生涯学び、活躍できる環境整備

(・働きながら学べる環境整備 ・文化芸術の鑑賞 ・体験機会の充実 等)

⑪ 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進

(・社会教育機関の活性化 ・社会教育人材の養成 等)

⑫ スポーツを通じた豊かな心身の育成

(・総合型地域スポーツクラブの充実 ・アスリートの発掘・育成 等)

県内の特徴的な取組事例



【探究ヘルプデスク】
・大学生による、高校生の探究活動のサポートの取組み
(東北芸術工科大学)



【朝日中スキマクラス2.5組】
・民間企業による、公立中学校内のオフィス設置と生徒との交流、先生の授業支援
(地域振興サポート会社まよひが企画)

方針Ⅲ 社会の変化に対応した学びの環境を整える

アクション6 教育DXを実現する

● ICTの活用が日常化し、学ぶ場所を自由に選び、教育データを活用して、リアルな体験と組み合わせた一人ひとりにあった充実した学びを実現する

⑬ 教育DXの推進・デジタル人材の育成

(・生成AIの活用 ・遠隔授業の拡大 ・教育データの分析・活用 ・児童生徒のICT活用力の育成 等)

⑭ ICT環境の整備

(・ICT設備の充実 等)

アクション7 活力あふれる学校を実現する

● 家庭や地域と役割分担しながら、外部人材の活用などにより、先生が余裕と余白を持つとともに、子どもが前向きに挑戦できる環境をつくる

⑮ 指導体制の強化

(・教職員の働き方改革 ・教員の養成・確保 ・研修の充実 等)

⑯ 教育環境の整備

(・高校再編 ・学校施設の整備 等)

⑰ 児童生徒等の安全確保

(・学校安全の推進 等)

アクション8 家庭や地域と一体となって子どもの学びを支える

● 子どもも大人も、学校の中でも外でも、自分の学びたいように学べる場や学べる選択肢を社会全体で協働し支えていく

⑱ 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上

(・コミュニティスクールの推進 ・家庭教育支援の充実 ・県立高校と地域が協働した取組みの推進 等)

⑲ NPO・企業・大学・地域団体等との連携・協働

<補足 (Appendix) > (仮)

○ ウェルビーイングについて ○ 持続可能な社会の展望について ○ 県内の取組事例について 等

(2)第7次山形県教育振興計画における社会教育事業について

1 事業名 青少年地域活動推進事業（仮）

(1) 背景・課題

- ・青少年が地域と関わる体験を通して、自分自身と地域社会のより良いあり方を考える機会を得ることは、ウェルビーイングの実現のために重要である。
- ・これまで、県教育委員会では、中学生・高校生に対して地域活動やボランティア活動をする機会を提供し、郷土愛の育成や地域の次世代人材の育成を図ってきた。中学生の段階では、「未来の参画者養成事業」において地域活動やボランティア活動の体験機会を提供し、活動のためのきっかけづくりを行ってきた。高校生の段階では、市町村の「YY ボランティア」の活動支援のための指導者研修や出前講座、青年の家の企画・実施する先駆的な活動、さらに、「地域次世代中核人材育成事業」で青年と高校生が地域活動を一緒に企画・実施する等取組みを進めてきた。その結果、自ら自主的に地域活動を企画・運営する高校生も出てきている。
- ・より主体的に地域に関わる青少年を育成するためには、中学校の段階で地域活動やボランティア活動を経験した生徒を、高校生の段階でも継続して活動に参加できるようにする取組みに、さらに力を入れることが必要である。
- ・そのためには、中学生の段階と高校生の段階に連続した流れを作り、活動の継続や新たな活動の立ち上げにつなげる仕組みが必要である。また、少子化等の状況もあり、地域差も考慮し進めることも重要であることから、各教育事務所や青年の家と役割を分担しながら推進していくことが必要である。

(2) 目的

青少年が地域と関わる体験を通して、自分自身と地域社会のよりよい在り方を考える機会を提供し、ウェルビーイングを向上させるために、中学生段階と高校生段階に連続した流れをつくり、活動の継続や新たな活動の立ち上げにつなげる。

(3) 取組み例

①地域における取組み（各教育事務所）

- ・中学生対象の地域活動・ボランティア活動の普及事業（活動の受け皿づくり）
- ・YY ボランティアサークルと中学生の合同事業（中高生に繋がり醸成）
- ・複数市町村の高校生・中学生の活動交流事業（活動の共有化、モチベーション向上）

②県域における取組み（青年の家）

- ・中学生や他のボランティアサークルを巻き込んだ先駆的活動の展開
- ・広域の高校生活動交流事業
- ・青少年ボランティア活動の広報・PR

次世代の地域づくり中核人材育成事業 令和4年度実績について

ファシリテーター＝ 15名(村山5名, 最上3名, 置賜3名, 庄内4名)
 参加者 ＝ 48名(村山15名, 最上6名, 置賜5名, 庄内22名)



- ◇酒田市中高生のサークルとの連携
- ◇地域の特徴ある場所を取材
- ◇実践発表会の実施 ◇SNS等による情報発信

庄内地区①
 「かざみどりの挑戦～Yボラサマーチャレンジ in 庄内」
 未来の参加者養成事業の「Yボラサマーチャレンジ」
 の企画運営スタッフとして参加し、アイスブレイクを企画した。

- ◇新庄・最上ジモト大学との連携
- ◇高校生が企画を実践

最上地区
 「Youは何する?最上(てっぺん)で!」
 ①地元の食材を使用して、アレンジ料理を作り、SNSで発信して地産地消を推進した。
 ②新庄まっぴりの囃子、喧噪、虫の声、川のせせらぎなどを十数秒×数本のクリップ動画にまとめ、「新庄コミュニティ放送あすラジ」で公開した。



庄内地区②「発見しよう! 発信しよう! 酒田の魅力」
 「傘福チーム、自然チーム、企画チームに分かれて、体験活動や取材活動を行い、内容を分かりやすくまとめて発表した。子どもから大人まで幅広い世代に、酒田の魅力を伝えた。」

- ◇高校生が“ホンネ”で語り、「やりたい」ことを実践
- ◇様々な場、大人への成果発表

- ◇地域の特徴あるカフェや観光地を取材
- ◇SNS等による情報発信
- ◇実践発表会の実施

置賜地区
 「おきぼら地域クリエイター beyond」
 川西ダリア園、三淵渓谷参拝、icho caféの3カ所に取材活動を行い、取材した内容をまとめ、SNSやメディアなどで発信し、地域の同世代の若者に魅力を伝えた。

村山地区
 「やまがた放課後ラボ～ホンネを語ろう 私たちのミライ創造プラン～」
 ・高校生が気軽に立ち寄り、語れる「サードプレイス作り」について考えた。様々なコンテストや設計士の方に自分たちの提案をプレゼンした。この取り組みは、次年度、山形市教育委員会新規事業として引き継がれることになった。
 ・「ごみ問題をテーマにしたボードゲーム製作」に取り組み、ゲームの構成、ルール設定、デザイン性など協議を重ね完成させた。グラフィックデザイナーや山形市ごみ減量推進課の方を招き、ゲーム体験及び講評をいただいた。
 ・自身の生活の中で感じる課題について語り合う中で、探究したいテーマを探った。



[指標] 地域活動に取り組む青年グループ数【KPI】

R2 = [目標値] 全市町村 77 団体 R3 = [目標値] 全市町村 78 団体 R4 = [目標値] 全市町村 79 団体
 R2 = [現状値] 23市町村 65 団体 R3 = [現状値] 23 市町村 66 団体 R4 = [現状値] 24 市町村 79 団体

成人式の前夜祭

山形 まちなか 文化祭

2023.9.2(SAT)-9.3(SUN)

10:00~17:00

入場無料

山形市中央公民館 AZ七日町軒下

まちなか文化祭とは？

山形市中央公民館のリニューアルに合わせて、県内13校の高校生が主催で開催するイベントです。高校生をメインターゲットにしたイベントですが、お一人やファミリーでも参加できます！

駐輪場はこちら！



未来の参画者養成事業 令和4年度実績について

参加中学生 = 66名(村山17名, 最上31名, 置賜0名(中止), 庄内18名)

今後、参画者(自分たちで企画運営する)として参加したいか
 参加したい・どちらかというに参加したい…62名
 どちらともいえない…2名 未回答…2名 参画者としての意欲…96.8%

Yボラ サマーチャレンジ in 庄内
 申込締切 7/15(金)
 〇ボランティア活動で自分たちを
 一緒に楽しみたいと思いませんか?
 〇自分の力を発揮してみませんか?
 〇仲間と協力して何かを成し遂げませんか?
 〇自分たちの力を発揮してみませんか?
 〇仲間と協力して何かを成し遂げませんか?
運営ボランティア大募集
 一緒に活動してみませんか?
 〇ボランティア活動で自分たちを
 一緒に楽しみたいと思いませんか?
 〇自分の力を発揮してみませんか?
 〇仲間と協力して何かを成し遂げませんか?
 〇自分たちの力を発揮してみませんか?
 〇仲間と協力して何かを成し遂げませんか?
内容 スキルアップ講座(ボランティア体験、
 〇ボランティア活動で自分たちを
 一緒に楽しみたいと思いませんか?
 〇自分の力を発揮してみませんか?
 〇仲間と協力して何かを成し遂げませんか?
 〇自分たちの力を発揮してみませんか?
 〇仲間と協力して何かを成し遂げませんか?
日程 8月2日(火)、3日(水) 9時~12時
 8月3日 三ツ子子育て交流施設(〒974-0101)
 3日 酒田市総合文化センター

◇庄内地区

事業名「Yボラサマーチャレンジ in 庄内」
 期日 令和4年8月2日(火)~8月3日(水)
 場所 三川町子育て交流施設 テオトル
 酒田市総合文化センター
 参加者 管内中学生18名 高校生ボランティアサークル4
 団体、8名、大学生1名 運営協力者4名
 内容 午前 管内高校生ボランティアサークル所属高校生
 による活動事例紹介
 スキルアップ講座(バルーンアート、工作等)
 ※1日開催を半日に変更(コロナ対応)

◇最上地区

事業名「最上地区中学生ボランティアセミナー」
 期日 令和4年8月9日(火)
 場所 最上広域交流センター ゆめりあ
 参加者 管内中学生31名 青年ファシリテーター3名 スキルアップ講座講師2名
 高校生ボランティアサークル3団体、9名 運営協力者9名
 内容 午前 ファシリテーターの実践活動体験講話
 管内高校生ボランティアサークル所属高校生による活動事例紹介
 スキルアップ講座(モルック交流体験、バルーンアート講座、図書
 館講座、新聞紙を使った遊び体験、アイスブレイクゲーム、フィール
 ドワーク、ラジオ講座)
 午後 スキルアップ講座で学んだことの実践

**最上地区
 中学生ボランティアセミナー**
 さあ、ボランティア活動の
 とびらを開こう!
 日程: 令和4年8月9日(火)
 会場: 最上広域交流センター
 参加者: 最上地区中学生、40名
 青年ファシリテーター、3名
 申込締切のり
 7月14日(木)
 スキルアップ講座、講話、ボランティア
 活動事例紹介など盛りだくさんの内容です。
 高校生ボランティアサークルの活躍も
 伺いながら一緒に、ボランティア
 について楽しく学んでみましょう!
 問い合わせ: 最上広域交流センター 総合企画課 TEL: 0235-29-1442



**置賜地区
 中高生ボランティアセミナー**
 新たな自分と出会う夏!
 期日 令和4年7月28日(木)
 会場 山形県飯豊少年自然の家・飯豊町白樺学童クラブ
 対象 置賜在住の中学生 15名程度
 ※申込多数の場合は抽籤となりますので、ご了承ください。
 主催: 山形県教育委員会
 協賛: 山形県飯豊少年自然の家、山形県青少年自然の家、飯豊町、飯豊町白樺学童クラブ
 実行委員会: 「あすの山形地域の未来を共に創る実行委員会」
 関係者: 置賜地区中高生ボランティア養成委員会(飯豊町、飯豊町)
 TEL: 0238-88-8242 FAX: 0238-84-8700

◇置賜地区

事業名「置賜地区中高生
 ボランティアセミナー」
 期日 令和4年7月28日(木)
 場所 飯豊少年自然の家
 内容 午前 青年ファシリテーターの講話
 実技研修
 ①バルーンアート
 ②科学工作
 (ペットボトル空気砲、レイン
 ボースコープ)
 午後 白樺学童クラブでの実地研
 修(児童との交流)

◇村山地区

事業名「MY ボランティアスキルアップセミナー」
 期日 11月19日(土)
 場所 山形県青年の家
 参加者 村山地区中学生17名 青年団体2団体 7名
 スキルアップ講座講師 2名 運営協力者 3名
 内容 午前 研修「ボランティアについて考える」
 実技講座①読み聞かせ
 ②レクリエーション
 ③手作りおもちゃ
 ④バルーンアート
 午後 グループワーク
 「講座で学んだことを生かし、
 企画を考えよう」
 ※2日開催を1日開催に短縮(コロナ対応)

**MY ボランティア
 スキルアップセミナー**
 第1回 8月2日(火) 3日(水)
 第2回 8月4日(木) 5日(金)
 対象: 村山地区の中学生
 会場: 山形県青年の家
 〒984-0101
 実行委員会: 〒984-0101
 山形県青年の家 TEL: 0235-29-1442
 参加費: 1,000円
 (昼食代、保険料含む)
 締切: 7月6日(火)
 研修: 読み聞かせ、レクリエーション、手作りおもちゃ、バルーンアート
 企画を考えよう

次世代の地域づくり中核人材育成事業 令和5年度の実績について

青年ファシリテーター 15名（村山4名 最上4名 置賜3名 庄内4名）
参画者 21名（村山6名 最上3名 置賜7名 庄内5名）

○村山教育事務所

【事業名】「いっしょにLinkる? ～「やってみたい」をカタチに～」

【概要】青年ファシリテーターとともに、自分たちの「やってみたい」ことについて話し合い、様々な「ヒト・モノ・コト」につながりながら、「やってみたい」ことを実際に行動に移し、“カタチ”にしていく。

【企画内容】「Link MURAYAMA」（村山市）で開催する“やままる祭”において、村山市を元気にしたいというやままる祭実行委員会や地元の企業の方と連携し、キーワードラリーを企画・運営した。来場した親子対象に、施設内に、ボウリング、まちがい探し、ぬり絵、動くスポットを設置し、施設内を巡る仕組みを考えた。考案したオリジナルキャラクターを用いて、キーワードラリーのパンフレットを作成し、来場者に村山市や施設の魅力を発信した。

○最上教育事務所

【事業名】「Youは何する?最上（てっぺん）で！」

【概要】青年ファシリテーターの助言のもと、新庄・最上地域の魅力を再発見・新発見できる様々な楽しい企画を考え、実践する。フィールドは、新庄・最上全地域。ジャンルを問わず、自由な楽しい発想で、1日で実施できることを企画する。参加者で3～4人のグループを編成し、一つの企画に取り組んでいく。

【企画内容】①陸羽東線の最上町の駅名が書かれたくじを引いて、新庄駅から、引いた駅名の駅に出かけた。その駅の周辺を散策し、これまで知らなかった新たな魅力を「魅力発見マップ」にまとめた。1月から最上広域交流センターゆめりあに掲示の予定。

②旬の最上伝統野菜を使ったラーメンを考案し、試作した。投票により最上（てっぺん）ラーメンを決め、総合支庁内食堂の「お食事処千起」さんに提案した。千起さんから試作したすべてのラーメンを11月下旬から週替わり定食で提供していただいた。

○置賜教育事務所

【事業名】「おきぼら地域クリエイターcrossover」

【概要】これまでの事業で培った経験とファシリテーターの地域活動の実績等を踏まえ、参画者が実際に地域活動に取り組むことで、地域づくりの次世代リーダーとしての資質を高めていく。

【企画内容】川西町こども食堂「なかよしキッチン」で、「SDGsババぬきカードゲーム」と「なぞとき迷路」を企画・実施し、参加した80名の親子に楽しんでもらった。

○庄内教育事務所

【事業名】「来夢来人、ネクストステージへ」

【概要】三川町中高生ボランティアサークル来夢来人では、毎年活発な活動が行われている。そして参加している中高生ボランティアは地域や自分たちの活動に対する意識も高い。しかし、活発な活動が行われている反面、自分たちでボランティア活動を企画、運営した経験はまだないという現状がある。そのため、今年度の次世代の地域づくり中核人材育成事業を通して中高生に「企画力」と「運営力」を身に付けていく。

【企画内容】①みかわまち納涼祭という地域のイベントで、自分たちが企画した「ビンゴ大会」「クラフト体験コーナー」「フォトスポット制作」「レモネードスタンドプロジェクト レモネード販売」を行った。

②来夢来人の活動を紹介する冊子を中高生で分担して作成する。その冊子を中学校に配布し、活動内容の紹介をしていく。

未来の参画者養成事業 令和5年度の実績について

◇「未来の参画者養成事業」

(1) 各地区の動き

○村山教育事務所

事業名「MY ボランティアスキルアップセミナー」

期 日 8月1日(火)～2日(水)

場 所 山形県青年の家

参加者 村山地区中学生 52名 ボランティアサークル所属高校生 11名

スキルアップ講座講師 7名 運営協力者 5名

内 容 1日目 講座「ボランティアとは？」

グループワーク「班の活動テーマを決めよう」

実技講座「読み聞かせのスキルアップ」「企画考案」

2日目 スキルアップ講座で学んだことの実践

訪問施設	実践内容
舞鶴保育園	読み聞かせ・手遊び・ペープサートの実演
天童東幼稚園	読み聞かせ・工作劇・紙芝居の実演
たかだま幼稚園	読み聞かせ・手遊びの実演
小百合保育園	読み聞かせ・手遊びの実演
小百合第二保育園	読み聞かせ・手遊びの実演
天童みくに幼稚園	読み聞かせ・手遊びの実演
長岡よつば児童クラブ	読み聞かせ・手遊びの実演
干布ひまわり児童クラブ	読み聞かせ・工作の実演
天童中央第四学童	読み聞かせ・ゲーム・軽スポーツ実演
天童南部第三・第四学童	読み聞かせ・工作・ゲームの実演

○最上教育事務所

事業名「最上地区中学生ボランティアセミナー」

期 日 令和5年8月2日(水)

場 所 最上広域交流センター ゆめりあ

参加者 管内中学生 27名 ボランティアサークル所属高校生 3名

スキルアップ講座講師・協力者 6名 運営協力者10名

内 容 午前 講座「ボランティアについて」

管内高校生ボランティアサークル所属高校生による活動事例紹介

スキルアップ講座(モルック交流体験、図書館講座、工作・折り紙
アイスブレイクゲーム)

午後 スキルアップ講座で学んだことの実践

訪問施設	実践内容
はぐくみキッズ放課後倶楽部	児童と一緒に折り紙・工作講座
明倫放課後児童クラブ	児童と一緒に折り紙・工作講座
新庄放課後児童クラブ	児童と一緒に折り紙・工作講座
新庄市立図書館	図書館ボランティア体験
コスモスロードを創る会	コスモスロードを創る会の方と交流体験
万場町若連（山車）	山車作り体験

○置賜教育事務所

事業名「置賜地区中高生ボランティアセミナー」

期 日 令和5年8月2日（水）

場 所 飯豊少年自然の家

参加者 管内中学生10名 次世代事業参画高校生7名

青年ファシリテーター1名 スキルアップ講座講師2名

内 容 午前 青年ファシリテーターの講話「地域づくりについて」

実技研修①バルーンアート

②科学工作（ペットボトル空気砲）

午後 白樫学童クラブにおいて、スキルアップ講座で学んだことの実践

（児童との交流）

○庄内教育事務所

事業名「Yボラサマーチャレンジ in 庄内」

期 日 令和5年8月2日（水）、8月4日（金）

場 所 鶴岡市小真木原総合体育館

遊佐町生涯学習センター

参加者 管内中学生26名 管内高校生1名

スキルアップ講師4名 運営協力者1名

内 容 午前 スキルアップ講座（バルーンアート、工作等）

午後 スキルアップ講座で学んだことの実践

① バルーンアート

② ポッチャ

③ スライム作り

④ 工作

2 事業名 教育支援企業認定事業（仮）

（1）背景・課題

- ・社会全体で教育を支え、ウェルビーイングの実現、また、「社会に開かれた教育課程」や「学校を核とした地域づくり」を推進する上で、地域との連携は不可欠である。伝統芸能保存団体など地域活動団体等との連携は進んできていることから、今後企業等との連携を充実させていくことが必要である。
- ・これまでの教育と企業等との関わりについて、地域学校協働活動における企業等との連携は、広がっておらず、実業高校の関連産業やその他高校の探究的な学習の取組み、小学校での地域学習、中学校の職場体験等の場面で連携が行われている状況にある。
- ・さらに、各企業等が実施している地域貢献活動の取組みを学校や地域学校協働本部が把握することは難しい状況にある。
- ・企業等も社会貢献活動を求められており、そのうち教育分野での地域貢献活動に取り組みたいと考える企業等は、約 28%※である。
- ・以上のことから、教育分野での地域貢献活動を実施したい企業等と、学校や地域学校協働活動本部がマッチングできる環境づくりが課題である。

※企業調査による教育 CSR の実態把握—教育活動から教育政策へ展開する主体の多様化— 教育ネットワークセンター
一年報 2016 青木栄一他

（2）目的

地域との連携を充実させるため、教育分野での地域貢献活動を希望する企業等法人及び団体等と学校や地域学校協働本部とのマッチングを図る仕組みを創設する。

（3）取組み例

①マッチングの環境づくり

教育分野での地域貢献活動を希望する企業等を募集し、企業等名や提供できるコンテンツ等の一覧を作成し、郷土を知る情報ポータルサイト等に掲載し、学校や地域学校協働活動本部が活用できるようにする。

②企業等にメリットがある仕組みづくり

- ・県教育委員会に協力いただいた企業等に対して認定証を交付するとともに、県 HP で広く周知することで、企業イメージ等の向上に寄与する。
- ・人手不足が続く中、企業等への理解や関心が高まり、将来的な企業活動に貢献する。

みなさんの教育活動を
応援します!!

どんどん
活用して
ください!



みやぎ 教育応援団

Education Cheer team

出前授業や
講演会、体験学習
の講師をお願い
したい!

職場見学や
就業体験が
できるところを
探しています!

いろいろな
施設をお借り
したい!



そんなお悩み
解決の **スリーステップ**

みやぎ教育応援団の団員は、
子どもの教育活動を応援する専門家!

支援は基本的に
無償!

1 ホームページで
希望の団員を見つける!

2 団員に連絡する!

3 支援を受ける!

**団員
大募集**

県内の企業、NPO、大学、各種学校の
みなさん、団員になって、
教育支援しませんか?

みやぎ教育応援団

検索

みやぎ教育応援団事務局

(宮城県教育庁生涯学習課協働教育班内)

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号

TEL 022-211-3690

E-mail: m-ouendan3842@pref.miyagi.lg.jp



✉ Eメール

みやぎ教育応援団とは!

子どもの学習や体験の充実を図ろう!

「みやぎ教育応援団」は、家庭、地域、そして学校が協働して子どもを育てる仕組みの一つとして設立しました。

「みやぎ教育応援団」の認証を受けた個人・企業・団体が団員となりみやぎの子どもの学習や体験の充実を応援します!

どんどん、活用!

支援は基本的に

無償!

教育活動の支援を依頼したい!

利用できるのは?

- 保育所や幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校などの教育機関。
- PTA、子ども会育成連合会
- 学校外で子どもの学習体験の充実を目的に活動を行う団体など。

依頼できることは?

- 職場見学
- 就業体験
- 出前授業
- 講演会講師
- 体験学習
- 施設貸出

職場見学のできる場所を探しています!

出前授業や講演会、体験学習の講師をお願いしたい!

就業体験の受け入れ先を見つけたい!

いろいろな施設をお借りしたい!



依頼

支援

子どもの教育活動を支援したい!

団員となれるのは?

(ホームページに登録されている団員は?)

- 専門的知識や技術を持った団体・個人
- 企業

※団体とは、大学や専修学校、各種専門学校、NPO、各種組合などをさします。

どう支援する?

団員は依頼を受けて、教育活動の支援を基本的に無償で行います!

※支援の詳細はホームページにてご確認ください。

わたしたちも先生なんです!



みやぎの協働教育とは?

協働教育推進総合事業として、地域の教育力の向上や活性化を図り、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進しています。

協働とは?

一歩進んだ連携や協力の形です。

家庭・地域・学校・行政がお互いを尊重しながら、子どもの健全育成に向けて目的を共有し、それぞれの特性や能力を活かしながら、一緒に働くことです。

みやぎ教育応援団事務局 (宮城県教育庁生涯学習課協働教育班内)

みやぎ教育応援団

検索



〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号 TEL 022-211-3690 E-mail:m-ouendan3842@pref.miyagi.lg.jp

✉ Eメール